

木造住宅建築の墜転落災害を防止しよう

Chapter.2

## 木造住宅建築現場の災害事例及び主な防止対策(2)

- ⑥外部工事
- ⑦造作、仕上げ工事

講師 小松泰彦(建災防セーフティエキスパート)

一般社団法人 日本木造住宅産業協会

## ⑥ 外部工事

- 1 足場作業床上で軒天作業中に横移動していたら、作業床より足を踏み外して躯体との隙間から墜落する。



### 👍 防止策

足場と躯体との隙間は30cm以下とし、墜落の恐れのある場所では安全帯を使用して作業する。

- 2 作業前ミーティングで、盛替えられた足場の周知が徹底されず、外壁下地作業に入った作業者が作業床の段差に気づかず墜落する。



### 防止策

足場を点検した職長は、足場の状況を作業者全員に周知徹底する。危険箇所がある場合はトラロープ等で立入禁止とする。

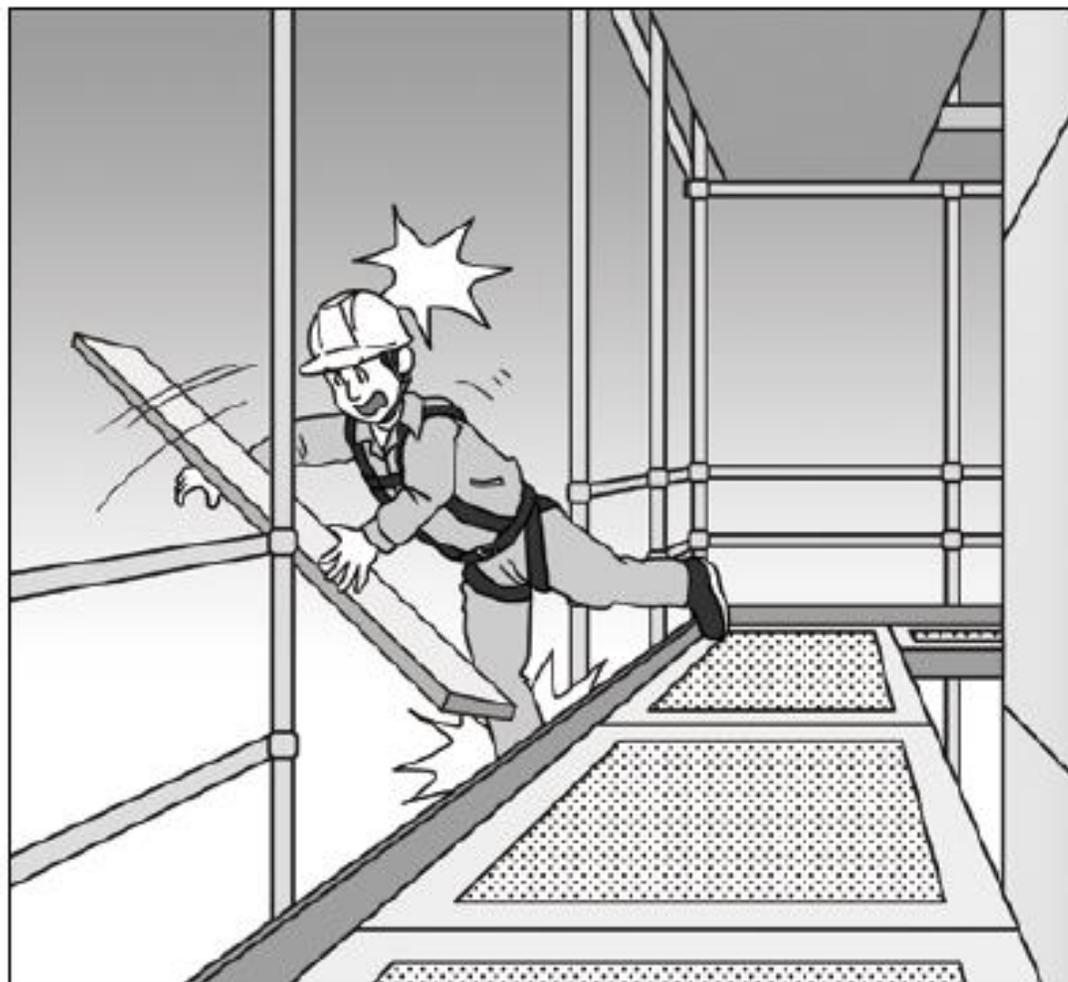
- 4** リフォーム工事で外壁塗装作業中、塗料入りバケツを持って垂直ハシゴを降りようとしていたところ、踏み棧を踏み外して墜落する。



**👍 防止策**

垂直ハシゴの昇降では安全ブロックを使うなど墜落防止措置を講ずる。部材や道具はホイスト等を使って安全に運び上げる。

- 5** 部材搬入で取り外した足場の手すり・中さんが復旧されずに時間が経過し、他職の作業者が手すり等外されていることなどに気づかず墜落する。



**👍 防止策**

臨時に取外した安全設備は、当該作業を行った作業者の責任で復旧する。足場を使用する作業者は、足場の安全を確認してから作業に入る。

- 6** 足場作業床上のサイディング取付けで、かがんだ姿勢で釘打ち作業中に手すり（作業床から90cm）の下から墜落する。



**👍 防止策**

足場作業の前に、手すり及び中さんの設置状況を点検する。一側足場では安全帯を使用して作業する。

## 7 造作・仕上げ工事

- 1 電気配線作業中、もう少しで届きそうなので脚立の天板に乗って作業していたら、バランスを崩してヒザから墜落する。



### 👍 防止策

脚立の天板は足がそろって踏ん張れないので絶対に乗らない。こまめに降りて脚立を移動する。

マニュアル33ページ

- 2** 脚立でクロス貼り作業中、足元を見ないで工具を手に持ち、後ろ向きに降りていたら、足を踏み外して足首を骨折する。

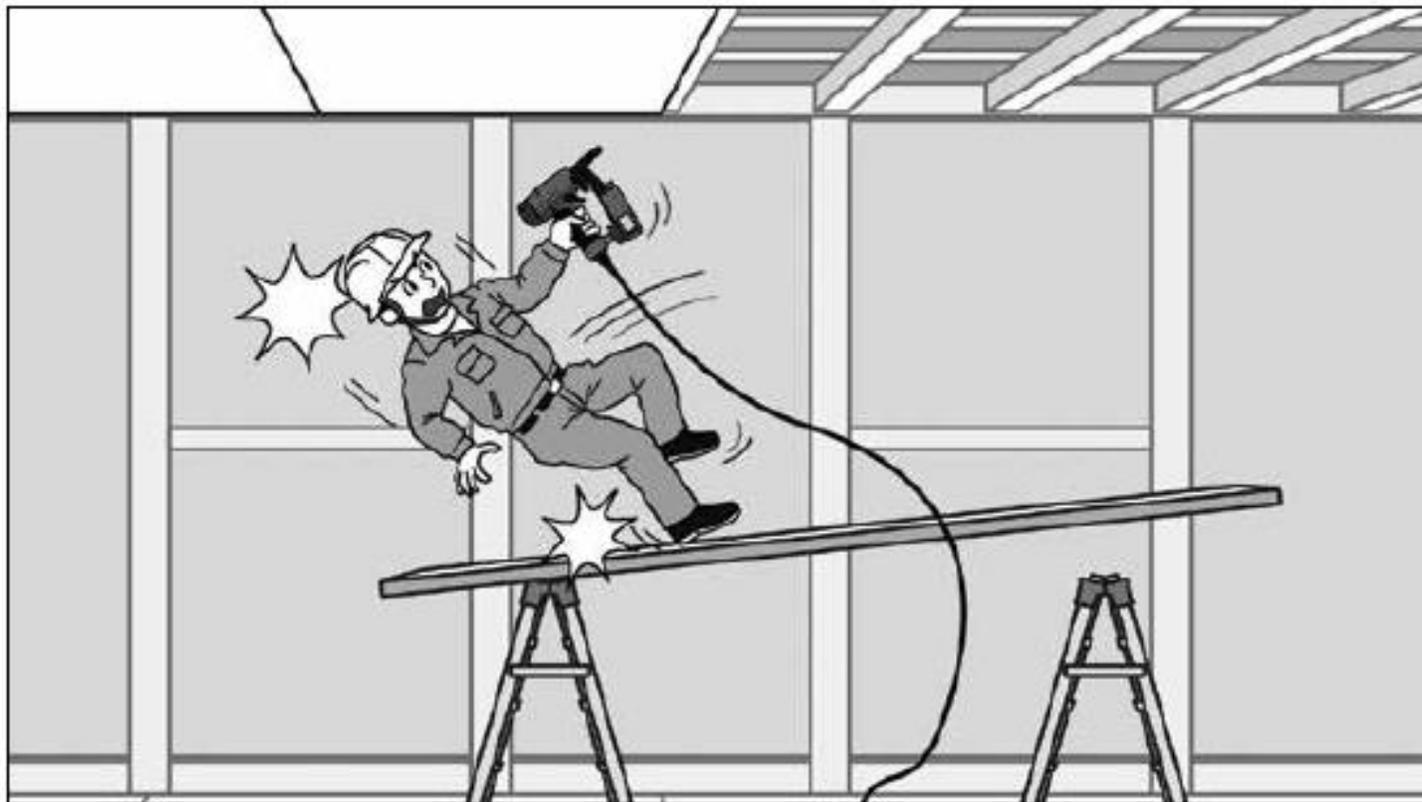


### 防止策

昇降時は脚立を背にして降りない。脚立側を向き、少なくとも片手は空け、壁や脚立を押さえながら降りる。

マニュアル33ページ

- 3** 天井ボード貼り作業中、脚立足場の作業床を天板に乗せただけだったので、作業床が動いてバランスを崩し墜落する。



**👍 防止策**

脚立足場の作業床は天板に乗せない。高さ2m未満、支点間隔1.8m以下、跳ね出し10～20cmの踏みさんの位置に、ゴムバンド等でしっかりと結束する。組立は足場の特別教育修了者が行う。

- 4 脚立を伸ばして2階への昇降用ハシゴとして使っていたら、固定されていない脚立が手前に浮き、脚立ごと墜落する。



#### 防止策

脚立をはしごがわりに使い昇降しない。長さが足りず上部突き出し60cm以上の確保や上部固定ができない場合が多い。また仮設通路として使用するには強度も不足する。

マニュアル34ページ

- 9 階段室のクロス貼り作業中、脚立に掛け渡した道板が外れ、道板とともに作業者が墜落する。



**👍 防止策**

階段、吹き抜け等の作業に当たっては、内部足場を設けるなどの墜落防止策を講ずる。